

平成30年度 嬉野市立大草野小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標		
「未来へかがやけ 蛭っ子！」 ～笑顔いっぱい、生き生き と学び合う児童の育成～	○学び続ける子ども ・意欲的に自主的に学習に取り組む。 ・じっくりと考え、相手に伝わるように表 現する。 ・進んで読書をする。	○思いやりのある子ども ・当たり前のことが当たり前にできる。 ・自他のよさを認め合いながら助け合う。 ・地域に学び、地域を愛する。	○たくましい子ども ・進んで心と体を鍛える。 ・規則正しい、健康的な生活を送る。 ・食事のマナーを身につけ、残さず食べる。 ・危機を回避する。



3 目標・評価						
①学び続ける子ども(知)「学力向上」						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	○学習習慣の定着	基本的な学習習慣の定着	・話を最後までよく聞くことができる児童90%を目指す。また、進んで発表しようとする児童85%を目指す。 ・「家庭学習にきちんと取り組んでいる」と答える保護者95%を目指す。	・話を聞く習慣づけの徹底指導、および、発達段階に応じた発表指導を工夫する。 ・「読む」「書く」「計算」の宿題を継続的に取り組み、自学ノートの活用を保護者へも啓発する。	Head 部会	藤井
	●学力の向上	算数科における思考力及び表現力を育てる指導方法の工夫	・児童の思考力・表現力を高めるための授業づくりを通して、活用力を育てる。 ・算数科の学習状況調査・標準学力検査において、各学年県および全国平均以上を目指す。	・算数科以外の教科にも主体的・対話的に学び合う活動を取り入れる。 ・少人数指導・TT指導を充実させ、計算タイムでの活用問題を工夫し、補充学習では全職員で指導に臨む。		川内
	○読書指導	読書指導の推進	・年間130冊達成児童100%を目指す。 ・いろいろなジャンルの本に興味関心を持つ児童を増やす。 ・毎月「ノーテレビ・ノーゲームデー」を実施し、読書の実施率を70%以上にする。	・教師やボランティアによる読み語りを実施するとともに、委員会児童の企画による図書館祭りを利用し読書の奨励を行う。また、親子読書回覧板やノーテレビ・ノーゲームデーを実施し、家読を勧める。		古川
	○ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育指導の推進	・児童が、コンピューターや電子黒板、インターネット等を効果的に活用して、主体的に学習に取り組ませる。	・情報教育専門官との連携を図ながら、職員の研修をさらに充実させる。 ・コンピューターや電子黒板を効果的に活用できる単元や活動をさらに工夫する。		川内
②思いやりのある子ども(徳)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	○基本的生活習慣の定着	奉仕・協力・勤労などの精神や態度の育成	・礼儀正しい児童を目指す。 (あいさつ・返事・言葉遣い・無言掃除・靴並べ・廊下歩行)	・6月と11月に「あいさつ運動」を実施することで、あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 ・掃除の手順や用具の使い方を指導し徹底させる。 ・掃除強化月間を設け、全校で重点的に取り組む。	Heart 部会	筒井
	●心の教育	思いやりの心の育成	・道徳教育の充実	・自分や友だちを大切にし、思いやりの心をはぐくむ学級活動や道徳の授業を大切にする。 ・人権集会や平和集会を行うことで、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティとの連携を図り、体験活動を充実させる。		富永
	●いじめの問題への対応	多くの目や手をかける学校及び学級経営	・一人一人のよさを認め合い、いじめのないクラスづくりを目指す。 ・学級が孤立しないよう、同歩調の指導を行い、「学校が楽しい」と言える児童95%を目指す。 ・「予防、早期発見、早期対応、再発防止」を念頭に置き、事案が発生した場合には、組織として迅速かつ丁寧に対応する。	・自分や友だちを大切にし、思いやりの心を育む学級活動や道徳の授業を大切にする。 ・いじめアンケートを定期的の実施するとともに、教育相談週間を設定する。 ・QUテストを年2回実施し、結果を活用し学級経営力を高める。夏季休業中に職員研修を行う。 ・職員間において「報告・連絡・相談」を徹底させるとともに、校内いじめ防止対策委員会を開催して、迅速に対応する。また、週に1回行っている「支援を必要とする子の情報交換」を充実させ、職員間の共通理解を図る。		筒井
	○特別支援教育	支援体制の確立	・特別支援教育に関する専門性を高めるために年に3回の校内研修を行う。 ・支援を必要としている子を把握し、個に応じた支援を行う。 ・特別支援教育に関する共通理解を図る。	・関係機関と連携し、専門の講師を招聘して職員研修を行う。 ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めるため適切な指導及び必要な支援を行う。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導を行う。 ・年度当初の必要に応じてケース会議を行い、共通理解を図る。		澤田
	●特別活動の充実	自主的・自発的な態度の伸長	・集会活動や縦割り班活動を通して、思いやりのある心、自己有用感を高める。	・学年や全校の場で出番をつくり、達成感を持たせる。 ・縦割り班活動の推進によって、高学年のリーダー性と思いやりの心を育む。 ・集会活動や学習発表会を通して、友だちのよさを認め合う。		池田圭
	●小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的な生活習慣、学習習慣の定着	・あいさつや返事が元気にできる児童90%を目指す。 ・毎日宿題をきちんとできる児童90%を目指す。	・あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 ・決まった量の宿題を出し、宿題はその日のうちに点検し返すようにする。 ・保護者と連携し、協力を得て達成する。		富永 池田圭

③たくましい子ども(体)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくりの推進	・心身ともに健康な児童の育成	・体育科の授業の充実を図り、運動が好きな子どもを育てる。(県教委の体力向上推進事業「さがんキッズスポーツチャレンジ」への参加) ・縦割り班での遊びの時間を使って、いろいろな遊びを経験させ、外遊びを奨励する。	・体育の授業作りについて意見交換をしたり、学習カードの共有をしたりできるようにする。 ・体育委員会のスポーツレクリエーションの時間を使って、「さがんキッズスポーツチャレンジ」の全種目に全学年がチャレンジするようにする。 ・掲示板や児童集会を使っていろいろな遊びを紹介し、遊びの楽しさを味わわせる。	Health 部会	竹下
	○安全対策	危機管理及び安全対策の強化	・自分の身は自分で守るという意識を持つ児童を育てる。 ・登下校のみならず、外出時の防犯ブザーの所持率を100%にする。 ・交通ルールを守り、自転車の正しい乗り方ができるようにする。 ・「生きる力」の教科書等を活用し、生きる力を育成する。	・関連機関と連携し、不審者対応避難訓練や交通安全教室を実施する。 ・学級活動、全校朝会等の機会を活用し、自転車の乗り方や身の安全を守る方法を指導する。 ・登校時のPTAや交通指導員の立ち番、下校時の見守り隊との協力体制を維持・継続する。 ・年間計画を作成し、年4回生きる力を育成する授業を実施する。		武富
	○望ましい生活習慣の形成	・健康的な生活習慣の定着	・年間を通して、立腰・手洗い・うがい・歯みがきを実践し、自分で健康管理ができる。 ・ハンカチ・ちりがみ・つめ・かみの毛・朝ごはん等、習慣化できている児童を90%以上にする。	・手洗い・うがい・歯みがきを習慣化し、感染症予防に努める。また、学校歯科医・市健康づくり課と連携し、歯科保健指導をすすめる。 ・衛生検査を週1回実施し、結果を活用することで、習慣化を図る。		松尾
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の形成	・食事のマナーを守り、好き嫌いなく食べる児童の育成	・食に関する知識と関心を持たせ、好き嫌いなく食べる児童を90%以上にする。 ・食器の持ち方や箸の持ち方、姿勢に気をつけるなど、マナー面での指導を徹底させる。	・学校栄養士による食育の授業や給食だより、給食委員会の発表などを通して、食の大切さを知らせる。 ・6月・11月に給食マナー週間を設け、日替わりでテーマを決めて正しいマナーを身に付けさせる。 ・栽培活動を通して、育てる楽しみを知り、食への関心を高める。		成富

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・毎週水曜日を定時退勤日に設定し、特に第3水曜日には実施を徹底する。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	教頭	榮岩